令和８年度小平市立上宿小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

正答率をみると全国平均と比べ「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は高く、「読むこと」の領域は 0.1 ポイント低い。東京都平均と比べ「書くこと」の領域は高く。「話すこと・聞くこと」の領域には、0.4 ポイント、「読むこと」の領域は、3 ポイント低い。

問題別に見た際に全国及び都の両方ともに正答率平均より下回っているものでは、「【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する」問題で全国平均より 1.8 ポイント低く、都平均より 6.1 ポイント低い。「〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する」問題で全国平均より 5.6 ポイント低く、都平均より 8.5 ポイント低い。「【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す」問題で全国平均より 2.8 ポイント低く、都平均より 3.6 ポイント低い。

課題

「話すこと・聞くこと」の領域において資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるような表現の工夫、比喩や反復等の表現の工夫について学習内容の確実な定着を図ると共に目的や意図に応じて、話の内容を捉えることの力を高めていく必要がある。

「書くこと」の領域については、学習内容はおおむね定着している。さらに書く力を伸ばすために、文章全体の構成や展開を考え、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を育む必要がある。

「読むこと」の領域については、文章から目的に応じ、必要な情報を見付け、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる力を育む必要がある。

学年別漢字配当表における漢字については、おおむね定着しているが、確実に定着しているとは言い難く、漢字を文の中で正しく使うこと、送り仮名を含んだ漢字の定着をさらに図っていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

２学期以降、「話すこと・聞くこと」の力を高めるために、自分の思いや考えを伝え合う学習において目的や意図が何であるかを考えた上で学習に臨ませるようにする。話されていることを簡潔にメモを取り、後で自分なりにまとめる機会を多く設け、内容を理解できるようにしていく。また、表現の工夫（比喩や反復）を用いることどのように相手に伝わるのかを考える時間を設定する。「書くこと」の力を高めるために常に相手意識をもつ視点を重要として、文章構成や自分が伝えたいとことを相手に伝える表現の工夫をどのように書いた文章にいかしたのか説明させる時間の確保など振り返りの時間で確認していく。漢字の定着については、家庭学習を充実すると共に単に漢字の字形を覚えるのではなく文章の中で正しく使うこと、送り仮名にも意識を高める指導を行い、習熟の時間を確保する。

【算数】　　状況の分析

正答率をみると全国平均、都平均と比べ「数と計算」「測定」「変化と関係」の領域は高く、「図形」の領域は全国平均より高いが、都平均と比べ 4.2 ポイント低い。「データの活用」の領域は全国平均より高いが、都平均と比べ 1.7 ポイント低い。

問題別に見た際に全国及び都の両方ともに正答率平均より下回っているものでは、「一辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を書く」問題で全国平均より 6 ポイント低く、都平均より 10.2 ポイント低い。「ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ」問題で全国平均より 2.8 ポイント低く、都平均より 8.3 ポイント低い。

その他、無回答率が高く、平均正答率が低い問題としては、「１立方センチメートルの立方体を３６個使ってできた直方体の体積を書く」平均正答率 49.1「四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く」平均正答率 50.9「二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く」平均正答率 19.3 であった。

課題

「図形」の領域では、体積の意味を理解すること、立方体の体積の計算による求め方について理解すること、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述することの力を高めていく必要がある。

「データの活用」の領域では、示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述すること、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることなどの力を高めていく必要がある。

全国平均、都平均と比べ「数と計算」「測定」「変化と関係」の領域は高いがそれぞれの領域についても、さらに正答率を向上するためには既習事項の定着が不十分であり、問題を解く際にどの既習事項を活用すると解答を導くことができるのかを考える力を育んでいくことが必要である。

また、算数科においては、無回答率が高い問題が多いことから、最後まであきらめず問題に向き合う力を高めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

２学期以降、既習事項をいかして取り組むことが問題の解決につながるという意識を高めていく必要があるため、授業時間内に習熟の時間を確保し、学んだことの定着を図ると共に振り返りを充実させ、その時間で学んだことやできるようになったことを確認していく。取り組む問題が何を求めているのかを理解するために、問題場面や状況を全体で考えたり、個人で考えたりする時間を確保する。その上で解答に関する自分の考えや友達の考えを共有する場面を設定する。

また、算数的活動を充実させ、実際に作図に取り組んだり、図形を手に取って触れる活動を行ったりする時間を確保する。学習者用端末を活用した学習を推進する一方で具体物を用いた活動の両方を授業の中に取り入れる。さらに、今まで以上に既習事項の確実な定着を図るために、学習の理解度に応じた課題を出すことで個別最適な学びとなるように取り組む。

【質問紙】　　状況の分析

肯定的回答が全国平均より 9 ポイント以上低かった項目が 20 項目あった。

1　全体に関わる項目
「自分には、よいところがあると思いますか」で 9.3 ポイント、「将来の夢や目標を持っていますか」で 15.7 ポイント、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」で 16.4 ポイント、「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」で 15 ポイント、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」で 12.3 ポイント、「５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で 12.3 ポイント、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」で 16.4 ポイント、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」で 10 ポイント下回っていた。

2　教科・領域に学習に関する項目
【国語】
「国語の授業の内容はよく分かりますか」で 15.4 ポイント、「５年生までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか」で 14 ポイント下回っていた。
【算数】
「５年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」で 12.2 ポイント下回っていた。
【その他】
「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」で 15.5 ポイント、「総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか」で 13.6 ポイント、「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」で 13.7 ポイント、「学級会における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」で 12.9 ポイント、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」で 9 ポイント、「英語の勉強は得意ですか」で 14.1 ポイント、「英語の勉強は好きですか」で 27.7 ポイント、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか」で 13.2 ポイント下回っていた。

課題

質問紙の結果を受け、課題を全体に関するものと教科・領域に関するものの２点に分ける。

1　全体に関する項目
こどもたちの目的意識を高め、目標を立てる大切さを指導し、将来を考えることができるようにしていく必要がある。
こどもたちの実態を十分に把握すると共に相談しやすい風土を作っていく必要がある。
様々な学び方があることを伝え、自己調整しながら学ぶことができるようにする必要がある。
授業においては、体験を伴った活動を取り入れると共に目的意識を高め、実生活を想起する指導を行う。また、自ら考え、友達と共有する時間を確保する必要がある。
他者の考えに触れるような場を設定し、互いの考えの良さに触れる学ぶ場を設定する必要がある。
テスト時間については、時間が足りていないとの回答が多く見られたため、問題の形式に慣れ、スムーズに問題に取り組むことができるようにしていく必要がある。
2　教科・領域に関する項目
【国語】
授業において、児童が分かる・できるとするために教材提示、発問、机間指導の視点で授業改善を図る必要がある。児童の学習状況を把握し、つまずきを見付け、どのようにすれば解決できるのかを丁寧に指導する必要がある。

【算数】
考えを共有する学習過程を大切にし、友達の考え方と自分の考え方について比較検討する時間を確保する必要がある。
【その他】
総合的な学習の時間において、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のどの段階を学習しているのかを明確にしていく必要がある。また ICT 機器を効果的に活用しているという実感を持たせる必要がある。
学級会において、学級会が何のために行われているのかを明確にした上で取り組むなど目的意識を持てるような取組にしていく必要がある。
道徳において、自分の考えだけではなく友達の考えに触れる学習過程を大切にし、友達の考え方と自分の考え方について話し合う時間を確保する必要がある。
英語への興味関心や楽しさを感じる内容や文化などを考える内容に取り組むだけではなく、英語はグローバルな社会で生きていくために必要不可欠なものであるという意識の醸成を図る必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

学校生活において教師は児童の状況を把握し、良いところを積極的に称賛し認めていくことを継続して行うと共にこどもたちが教員に相談できるような雰囲気づくりを行う。２学期以降、授業、学校行事等で目的意識をさらに高め、こどもたち一人一人が自己有用感を高めることができるよう指導をする。また、授業では主体的・協働的な学びとなるよう自分の考えをもたせる時間や様々な考えを比較検討する時間を確保すると共に ICT 機器を効果的に活用した授業を行う。テストの振り返りの際に分からないところがある場合は、個別指導を取り入れながら指導に当たる。
９月より、教員の授業力向上のための 0JT 研修として指導法やこどもたちの自己肯定感を高めるてだて等に関する内容を取り入れる。また、教員相互に授業参観を行い、授業力向上を目指す。